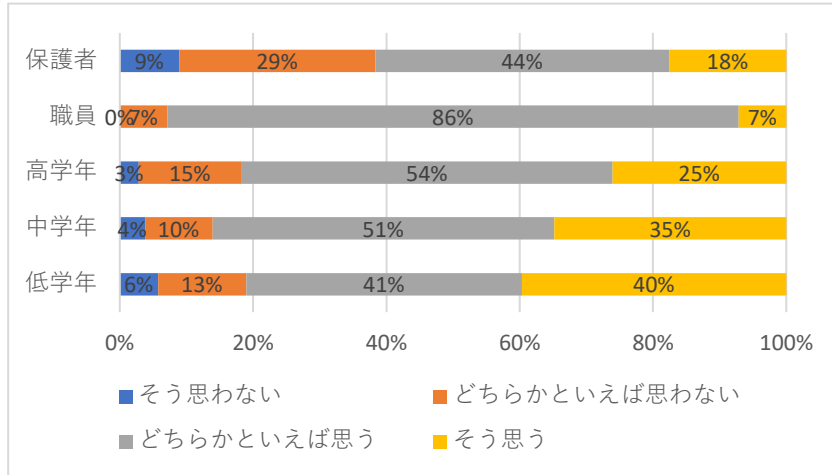


令和4年度 学校評価アンケート

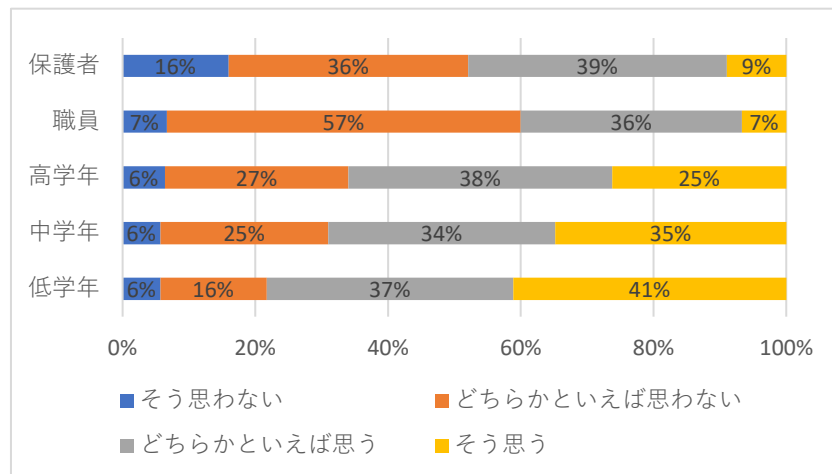
本年度の学校評価アンケートにご協力をいただきありがとうございました。結果についてお知らせします。

Q1.お子さんは自分から進んで学習をすることができる。



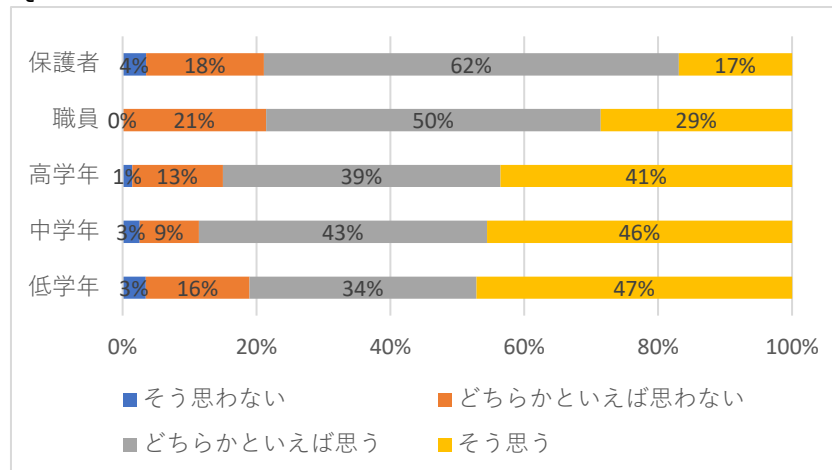
昨年度と比べ保護者の児童に対する評価が低くなっています。（昨年度は93%）保護者が願っている姿とお子さんがイメージしている進んで学習する姿に開きがあるように見られます。

Q2.お子さんは家庭で学習を進める際に計画を立てて行うことができる。



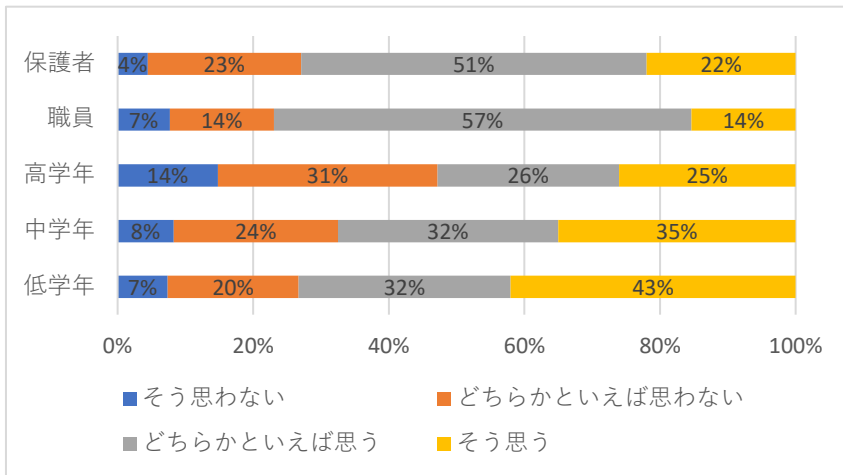
Q1に続いて大人の評価が昨年度よりも下がっています（昨年度約75%）が児童と教職員は大きく変化はしていません。保護者の方がどのようなイメージをもっているのか把握をしていく必要があります。

Q3.お子さんは前に学習したことを次の学習に生かして問題を解くことができる。



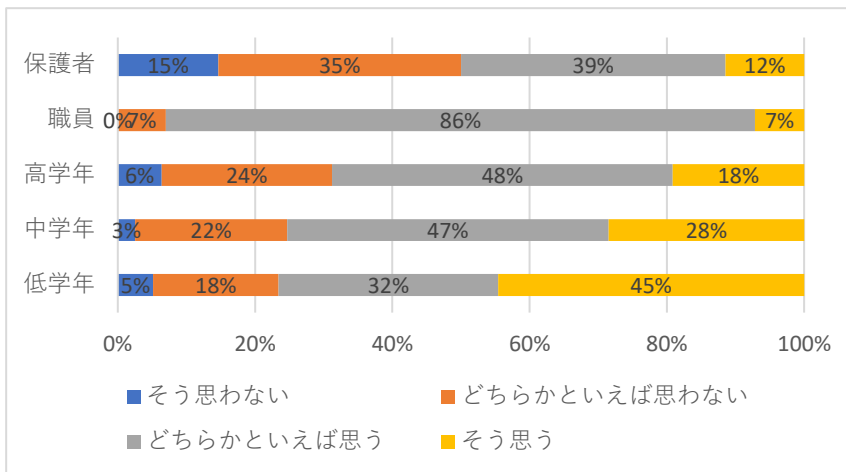
昨年度までと比べて、児童の回答（昨年度約66%）が大きく変化し、自信をもっている様子がわかります。教職員も79%の肯定的な意見が見られますが、保護者については79%どまりで昨年度程肯定的ではない様子がわかります。

Q4.お子さんは学習し答えに辿り着いた道筋を家の人にお話しすることができる。



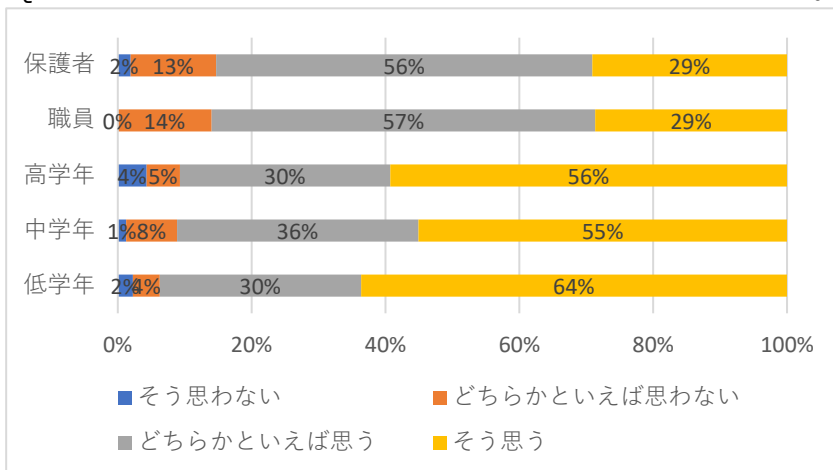
高学年になるほど、「思わない」寄りの意見が多くなってしまふのは、やはり「間違っていないか」「曖昧な部分がある」と不安に感じる理解で終わっている可能性も示唆しており、復習などで定着を図りたいと思います。

Q5.お子さんは感想文や作文を分かりやすく書き表すことができる。



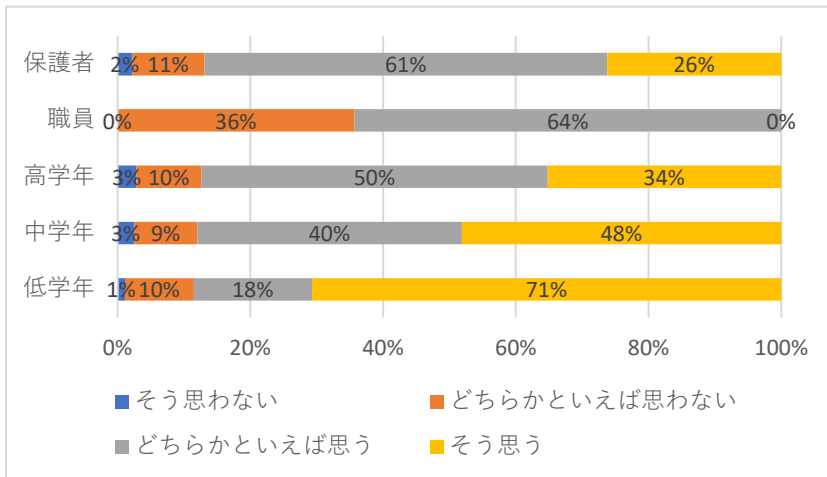
保護者や児童は、文を分かりやすく書き表せていないと考えているようです。教職員との意識の違いが大きいです。この点について作文に対して意識が高くなっている児童に対応できるように研鑽が必要だと考えます。

Q6.お子さんは相手の立場になって考えることができる。



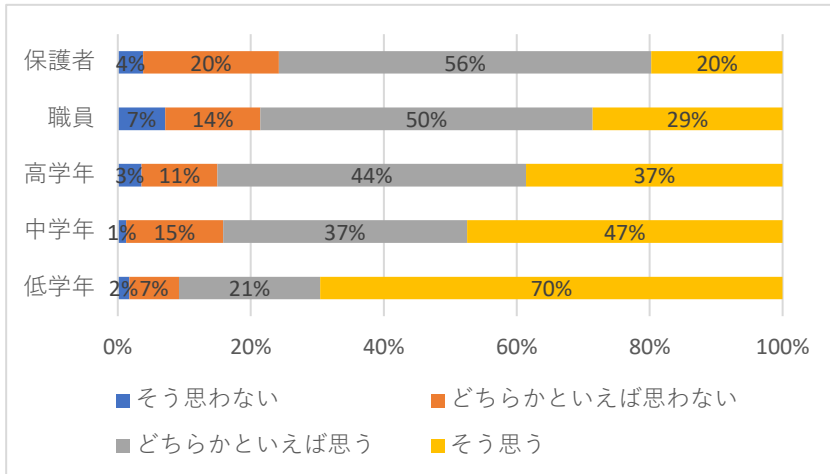
今年度は、大人と子どもたちの意識の差が出ています。「そう思う」が大人と子供たちでは2倍近く開きがあります。大人はさらに児童とイメージを共有していく努力や機会を増やしていく必要があると考えます。

Q7.お子さんは挨拶や返事等の礼儀が身についている。



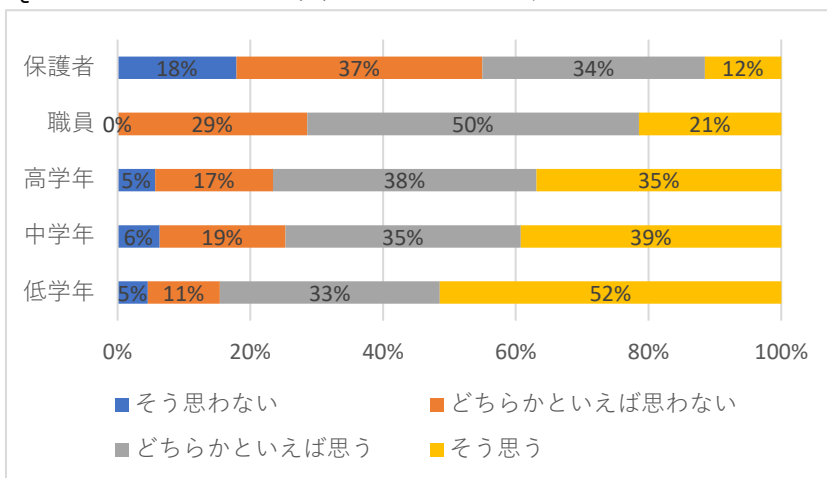
保護者、教職員、高学年は昨年度と大きく割合に変化がありませんでした。児童の中では、低学年の児童たちが元気よく挨拶をしてくれているので実際の行動が数値に表れていると思います。また、高学年が毎朝がんばって行っているあいさつ運動の効果も大きいと思います。

Q8.お子さんは決めたことを最後まで諦めずに取り組むことができる。



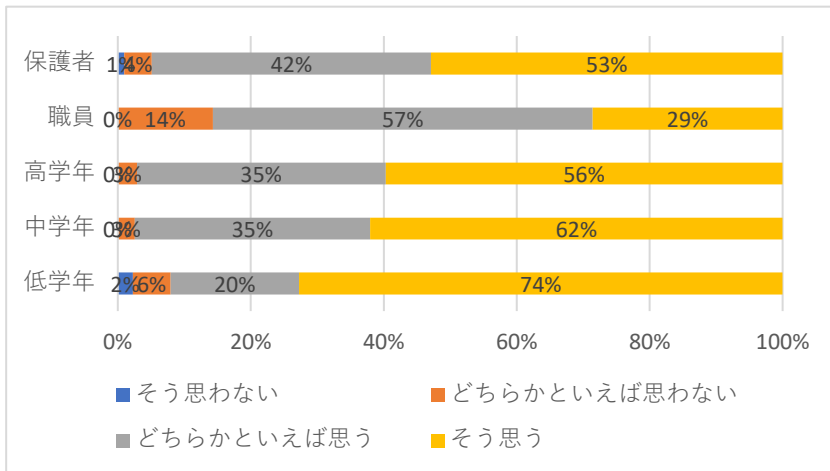
昨年度と比べ、保護者、教職員ともに10%近く数値が落ちている項目です。児童の数値は大きな変化がないことから、大人の低下の原因がどこから感じられるのか、観察、考察をしていく必要があると考えます。

Q9.お子さんは身の回りの整理・整頓をすることができる。



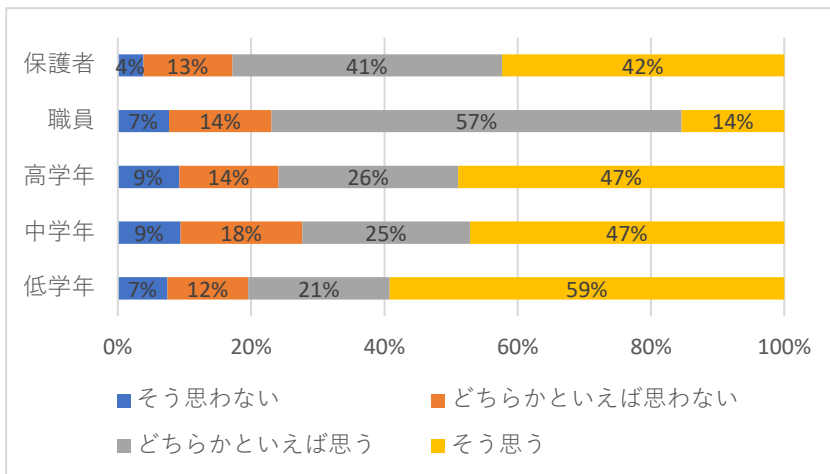
保護者の「そう思わない」寄りの意見が20%以上高くなり、「そう思う」寄りの意見が16%近く減っています。家庭で保護者と過ごす時間が多くなり、目に留まることも多くなっていることも関係があるのではないかと考えられます。

Q10. お子さんは交通ルールなどの約束を守って生活することができる。



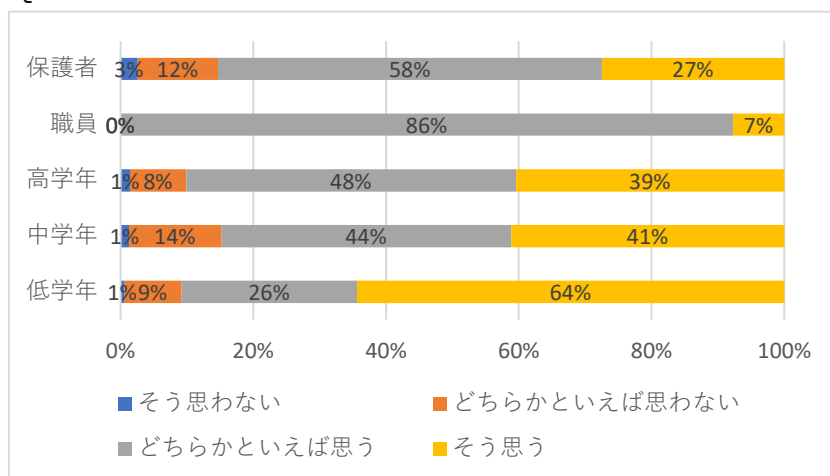
全体的に昨年度よりもよい回答である。日常でも、保護者からの交通事故の報告が昨年まで比べ少なくなっています。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が0%になるようにしたいと思います。

Q11. お子さんは帰ってきてから、学校の様子を話してくれる。



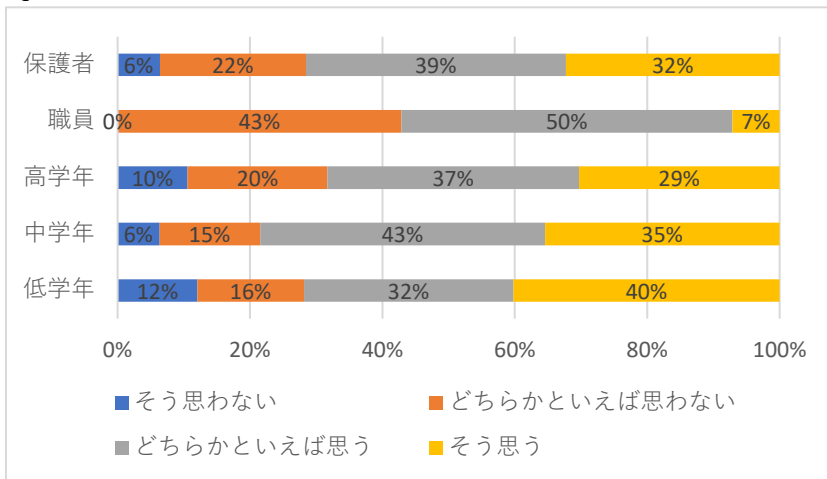
子供たちについては、昨年度との大きな開きはないようです。ただ、児童の各10%近くが、「そう思わない」と示しています。30人学級であれば3人と考えると、安易に考えられません。大人も意識して子供たちの声を聴く時間を設けることが必要かもしれません。

Q12. お子さんは家庭で約束したことを守ることができる。



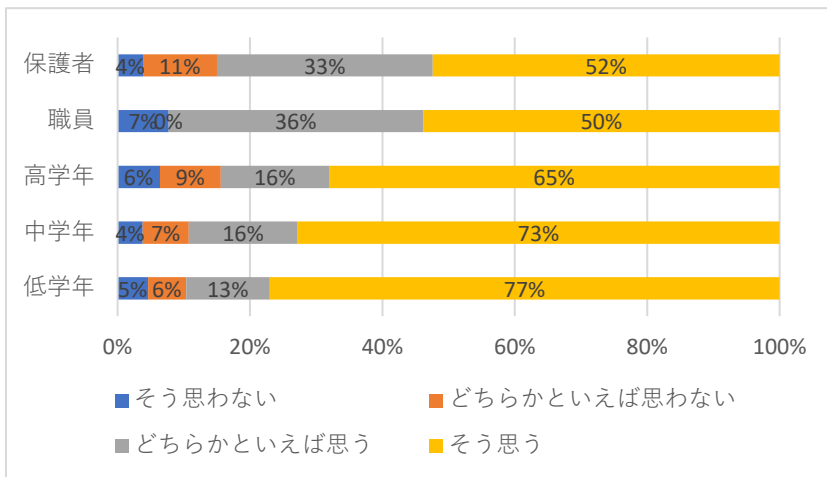
多くの児童は家の人との約束を守ることができると思っています。保護者の意見とも近い数値であるように見えます。ただ10%から15%が守れないとも答えており、安全に直結していないか心配が残ります。

Q13.お子さんはお休みの日でも規則正しい生活を送ることができる。



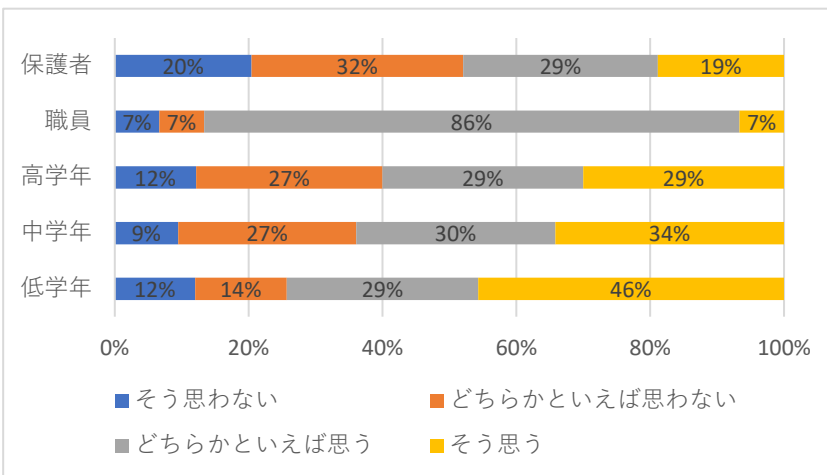
この質問も児童は昨年度比、大きな変化が見られませんが、保護者と教職員の数値がネガティブな方向で変化をしています。子供は意識をしていないが大人は児童の様子に変化を感じていることがわかります。

Q14.お子さんは体を動かして遊んだり、体験をしたりすることが好きだ。



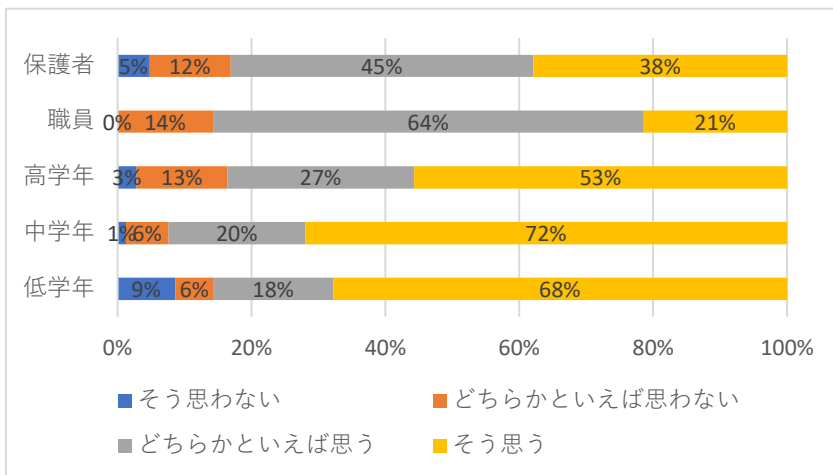
昨年度までと比べて、良いほうに大きく変化した質問項目です。規制の緩和が進む中で、いろいろなことができるようになってきていることも大きな要因なのかもしれないと感じます。

Q15.お子さんは学校や習い事の課題以外に、自分で学習をする時間を作っている。



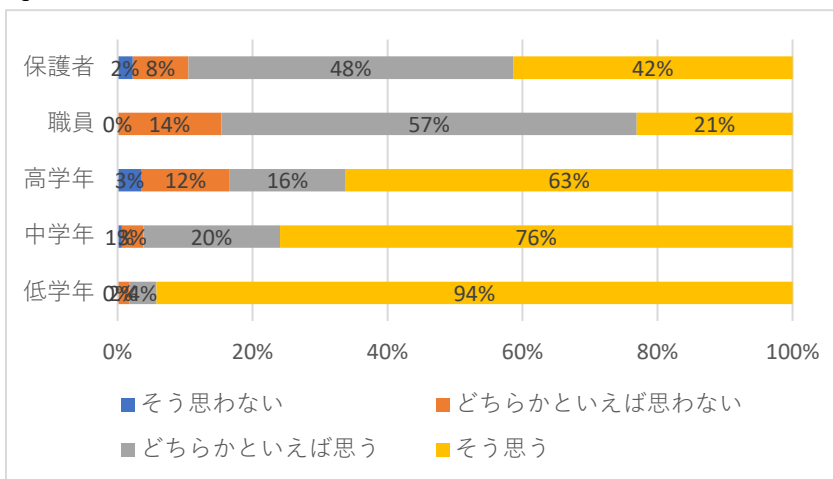
保護者の意見が昨年度と比べ大きく変化した質問である。昨年度は94%がポジティブな数値でした。この大きな変化については、習い事や学校も以前のような活動ができるようになってきていることから、子どもたちの放課後に時間的な余裕がなくなっていることも考えられます。

Q16. お子さんの担任は相談しやすく、また助力や解決をしてくれる。



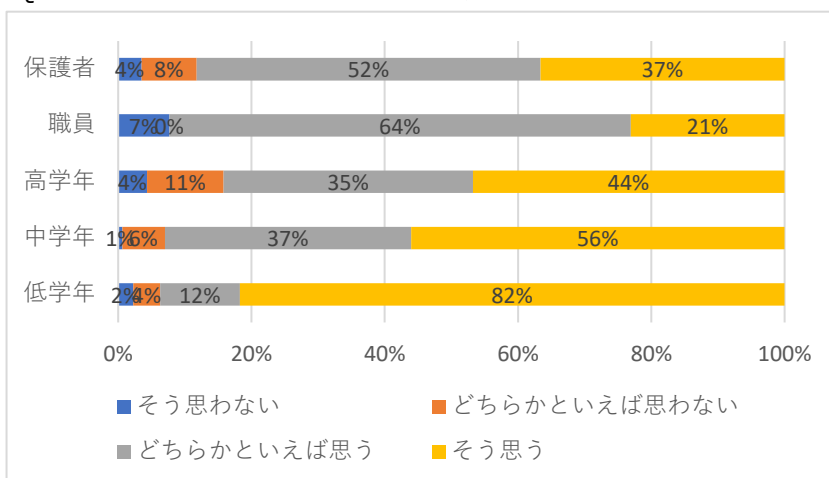
全体としては、高い水準ではありますが、昨年度と比べ教職員の「そう思う」の割合が半分以下になっています。「もっとできたのではないか」などの反省があるのだと考えられます。

Q17. お子さんの担任はいつも楽しいクラスになるように努力をしていると感じる。



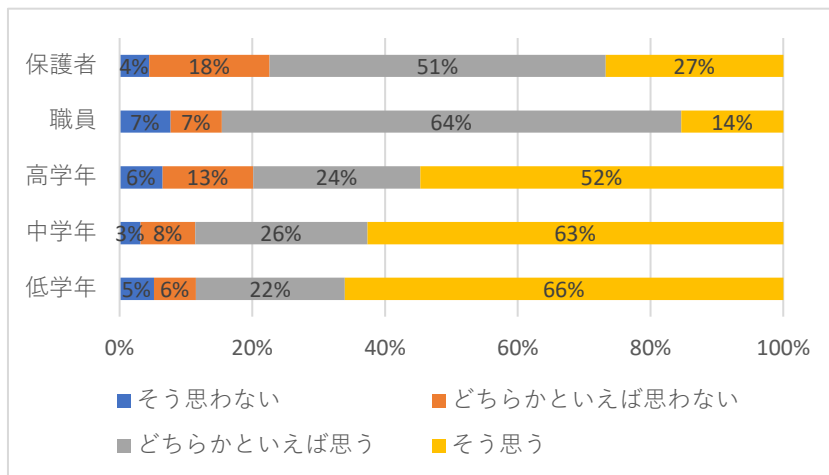
昨年度以上に学級の経営に対する意見はポジティブです。特に低学年では94%が楽しさを感じてくれていることがわかります。

Q18. お子さんの担任は授業が分かりやすく楽しそうである。



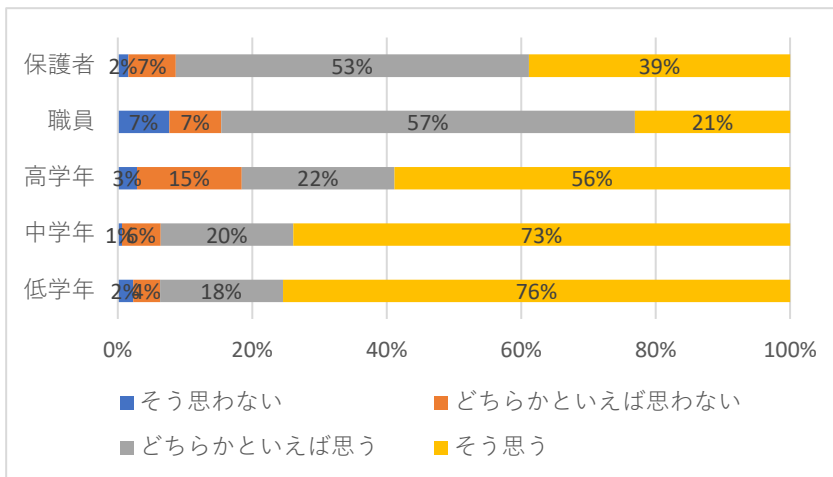
昨年度と同様の割合ですが、職員の中でも、まだまだ努力が必要だと感じている職員がいます。校内、校外での研修で研鑽を積み、児童に還元できるようにしていきたいと考えます。

Q19.お子さんの担任は休み時間に一緒に遊んだり話を聞いてくれたりするようだ。



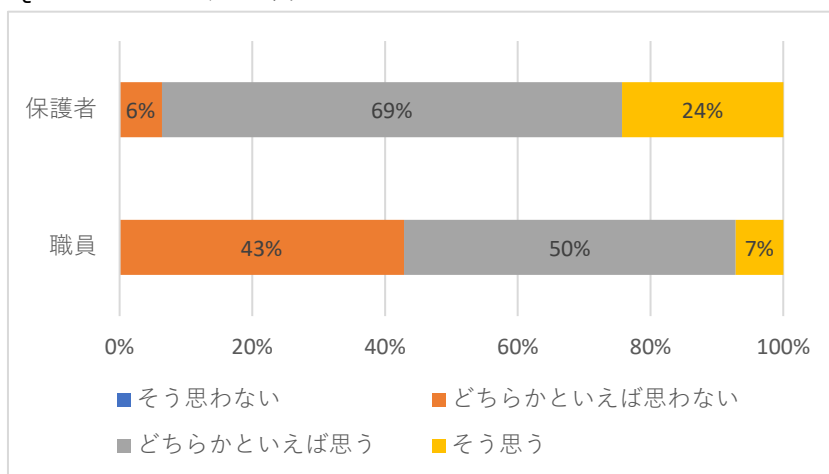
概ね昨年度と同じような数値だと感じます。休み時間の中で、休憩をとることも大切にしながら、授業の中では見られない児童の様子を知る貴重な時間となるようにこれからもしていきたいと考えます。

Q20.お子さんは担任の話を理解している。



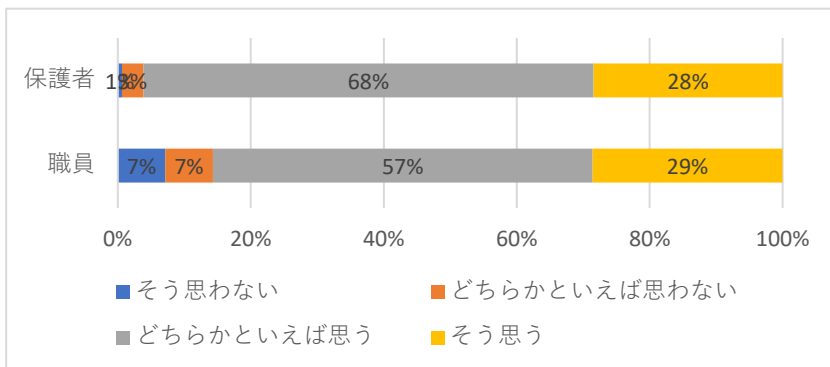
高学年の児童の中で分かりづらいている児童が18%おり、より丁寧な指導が必要だと考えます。保護者、教職員は概ね同じような割合ですが、中には「そうも思わない」と答える職員もあり、更に力をつけたいと思っている様子も分かります。

Q21.学校は、学習するための用具や施設などが充実している。



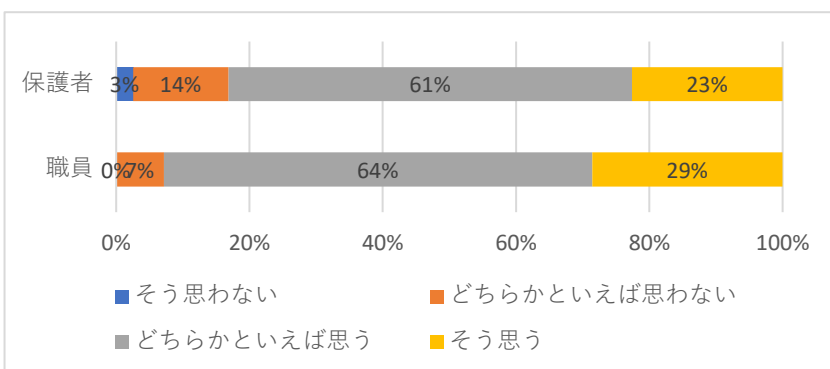
GIGAタブレットなどの教具が日常的になり、使用頻度が上がってくると、設備に不便さを感じることも多くなってきているのだと思います。また、校舎などは築26年目を迎え、毎月修繕の工事を行っています。

Q 2 2.学校は、校舎内外の整備や安全確保に努めている。



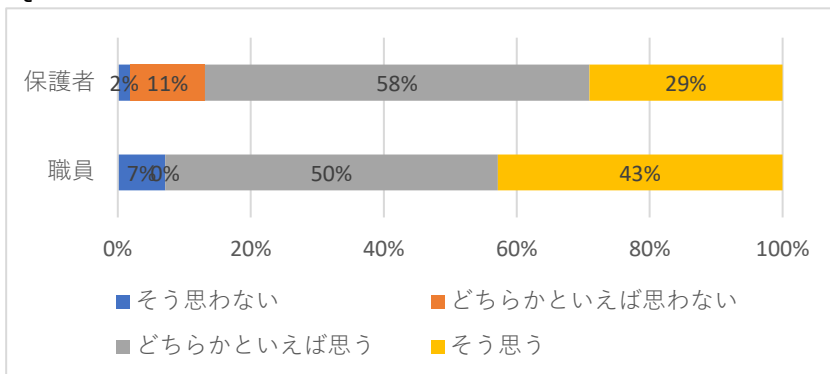
昨年度、南側階段のガラス壁面の工事などの工事やLEDライト交換工事などが終わりましたが、様々な場所が老朽化している中、計画的な修繕を行っていく必要があります。

Q 2 3.学校は、相談しやすい雰囲気がある。



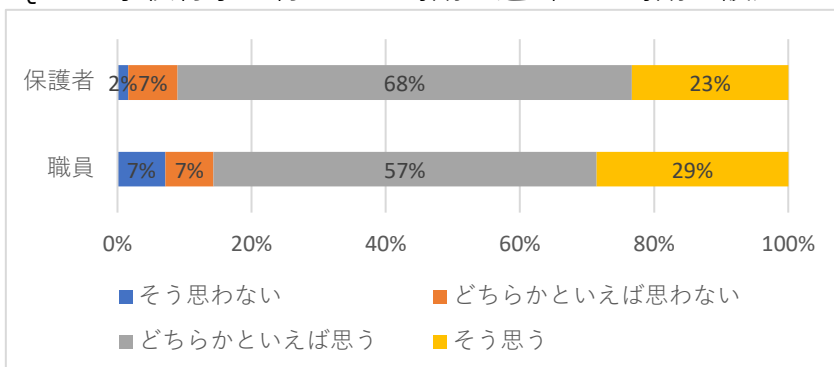
昨年度と比べ、職員、保護者ともに数値が若干下がっています。普段からのコミュニケーションが大切だと感じます。

Q 2 4.学校からのお便りや連絡、緊急連絡メールなどは分かりやすい。



今年度は、大きな自然災害に見舞われることなく、ここまで来ることができています。今後も伝わりやすいような工夫、努力をしていきたいと思います。

Q 2 5.学校行事が行われる時期は適当おな時期に設定されている。



これから少しずつ、以前に近い形の行事運営になっていく中、保護者の方の参加がしやすい方法などについても熟考していくことが必要だと考えます。